

「全鍍連」 2021年 3月号 巻頭言

全鍍連情報・国際委員長 金森 秀一

(株)オジックテクノロジーズ 代表取締役社長)

「マインドリセット」



VUCA の時代だという。天災、疫病、急速な社会変革など環境が目まぐるしく変わる予測不能な状態だと。

2016年4月震度7が2回も襲った熊本地震。あれから5年。阿蘇への国道は昨年10月やっと復旧した。大規模斜面崩壊により崩れ落ちた阿蘇大橋周辺は震災遺構として「数鹿流（すぎる）崩れ」と命名され保存される。しかし代わりの新阿蘇大橋（仮称）はまだ建設途中だ。熊本城は天守は復元できたが石垣はまだまだこれからだ。熊本は着実に復興しているが完全復興には気が遠くなる年月が必要だ。昨年7月には今度は豪雨が人吉を襲い球磨川が氾濫、甚大な被害を与えた。未だ多数の人が仮設暮らしをしている。そして今も続くコロナ禍は人とモノの動きを世界同時に停止させ、需要を蒸発させると共に超デジタル社会へのパラダイムシフトを急速に進めた。企業存続は難しくなり生活困窮者も多く出てきている。様々な禍に襲われ、復旧には長期を要し、社会や経済は元の形に戻らない、不安定で低成長な時代なのだ。この絶望的令和の環境を乗り切る能力を企業経営者には問われている。

「通算成績1勝21敗2分、外国チームに勝てない」2011年のラグビーワールドカップ（RWC）終了時の日本代表の成績に誰もが絶望していた。その日本をマインドリセットさせたのが2012年に日本代表ヘッドコーチ（HC）に就任したエディ・ジョーンズだ。「日本代表にはスピードとスキルにポテンシャルがある」「ボールを速く動かし、パスとランで自分達が試合のテンポをコントロールする攻撃ラグビーを展開する」と代表選手を鼓舞し「攻撃ラグビーの戦術実行のために世界とフィジカルで互角に戦い、フィットネスで上回る」と世界一過酷な練習を課した。チームが変貌していく姿に「未来像を画くのに重要なのは目標を明確に立てる事」「できない理由を探すより、何ができるかを探すべきだ」とインタビューでは答えている。明確な戦略と限りない努力が2015年のRWCにおいて日本が優勝候補の南アフリカをノーサイド直前の逆転トライで破るという快挙に結び付けた。2019年のRWC日本大会での日本代表の躍進はこれらの努力がベースになっていることは言うまでもない。

VUCA の時代に必要なのはこのエディ・ジョーンズ HC のようなマネジメントではないだろうか？ 需要創造に繋がる自分たちが活躍できる分野を見出し目標設定し、その到達の道筋を明確に示し社員のベクトルを合わせるとともに達成のための強化プログラムをそれぞれに課し、個々の能力を上げ難題解決の突破力をつける。DX などの武器を備えることも重要だ。未来を見据えたマインドにリセットしてトライしたい。

2023年RWCフランス大会では日本代表はエディ・ジョーンズ HC 率いるイングランドと同じ予選グループで戦うことが

決まった。コロナ禍を克服し移動の自由を取り戻し、フランスのスタジアムで試合観戦できることを願う。

* VUCA <V : Volatility (変動性) U : Uncertainty (不確実性) C : Complexity (複雑性) A : Ambiguity (曖昧性) >